



「山田錦FW1号」の新酒がお披露目されました

3月5日、久保田酒造（福井県坂井市）で、今年の新酒をお披露目する「酒蔵開放2023」が3年ぶりに開催され、約900人の来場者で賑わいました。

今年仕込んだ新酒の初売りのほか、その場で飲める新酒の飲み比べ、銘柄を当てる利き酒コンテスト、酒粕はがしの体験など、楽しい催しも多く行われました。

エネ研と福井県立大学が開発した「山田錦FW1号」で仕込んだ純米吟醸酒「蒼天跳馬（そうてんちょうば）」もこの日が初のお披露目で、四合瓶のほか、その場で飲める試飲カップでの販売も行われ、この日を待ち望んだ日本酒ファンができたてのお酒を楽しみました。会場では、「山田錦FW1号」の育成に携わった福井県立大学の学生が、蒼天跳馬を口にした来場者に感想をアンケート調査し、83%の人に「この日本酒は好き」、93%の人に「知り合いに勧めたい」と評価されました。また、「甘口で飲みやすい」という感想も寄せられました。

山田錦はもともと福井の気候では栽培が難しい酒米で、今回、エネ研と福井県立大学により福井の気候に適した山田錦の開発を目指してきました。（今回の新酒は来場者からもなかなかの評価を得られたと思っています）更に県内各地で山田錦の栽培が広がり、福井の米と水で造った日本酒が増えるよう、今後も福井の気候に合った新しい山田錦の研究を続けていきます。



お披露目された
新酒「蒼天跳馬」



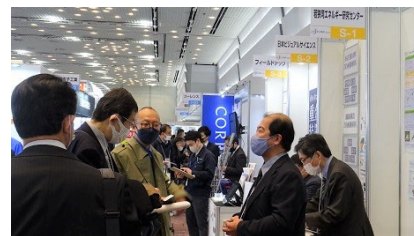
会場の様子

展示会「JASIS関西2023」に出展しました

2月1日から3日までの3日間、グランキューブ大阪で開催された、分析機器及び科学機器メーカーが一堂に会する展示会「JASIS関西2023」に初めて出展し、エネ研が開発したイオン加速器を用いる独自の分析法「TOF-ERDA（飛行時間測定弾性反跳粒子検出法）」を紹介しました。

展示ブースに訪れた国内外の大学、研究機関、企業の方に上記の分析法やエネ研を紹介するとともに、活発な意見交換をすることができました。

展示会や関連学会での企業展示、専門的な研究会等での発表を通じ、引き続きこの技術をPRしていきます。



エネ研展示ブース



会場案内

廃止措置工事に係る事業者説明会を開催しました

2月1日、廃止措置工事に係る事業者（国立研究開発法人日本原子力研究開発機構）による説明会を福井県若狭湾エネルギー研究センターで開催しました。この事業者説明会は、県内企業の廃止措置工事への参入促進の一環として開催しており、3回目となります。今回は、高速増殖原型炉もんじゅの廃止措置工事及び新型転換炉原型炉ふげんの廃止措置計画変更（工程変更）について説明が行われ、38社が参加しました。

「もんじゅ」については、廃止措置工事の全体工程をはじめ、水・蒸気系等発電設備の解体撤去工事の概要や範囲等が説明されました。また、「ふげん」については、廃止措置工程が7年間延伸されたことから、見直し後の工程や原子炉本体解体撤去に係る工法の変更等が説明されました。

今後も事業者や参加企業の協力も得ながら、県内企業の廃止措置業務への参入につながるよう、情報交換会の開催などに取り組んでいきます。



事業者による説明



会場の様子

藤島高校生物部への協力について

エネ研は大学での講義、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）やJAXAライブ（敦賀市小学校向け特別授業）等地域の学校教育への貢献に取り組んでいます。

そのうち、エネ研が相談対応等を行っている藤島高校生物部が、令和4年10月に開催された「令和4年度 第56回全国野生生物保護活動発表大会」において、イタチに関する研究「ニホンイタチを守るために～雑種の発見を通して～」で林野庁長官賞を受賞しました。この研究は、3年前から鯖江市、福井市自然史博物館と共に行われており、その地域協働性と、DNAによる判別法により、今までいないと考えられていた在来種のニホンイタチと外来種のシベリアイタチの雑種を新たに発見したという点が特に評価されました。

この研究を更に進めるため、エネ研が得意とするDNA分析について、当法人の田中良和主幹研究員に高校から協力の依頼があり、本格的にサポートすることになりました。

これからもこの研究をはじめとして、学生の知的好奇心を育てる活動への協力に努めていきます。



シベリアイタチ
（鯖江市提供）

本誌を読まれての御感想、御意見を下記担当までお寄せください。

住所: 〒914-0192 福井県敦賀市長谷64号52番地1

E-mail: kikakushien@werc.or.jp

TEL: 0770-24-7273 FAX: 0770-24-7275

公益財団法人若狭湾エネルギー研究センター エネ研ニュース担当

